デリカ

手を止めない連続散布を

土作りの効率変わる

自走マニアスプレッダと搭載ダンプベッセルの連携で実現



この組み合わせで施肥作業が格段に向上する

翌期の安定生産へ向け、土壌の地力回復を図る「収穫後の秋土づくり」。良質な堆肥の施用は不可欠だが、広域に点在するほ場や大区画化が進む現場では、運搬・散布にかかる労力と時間が大きな課題となっている。そこで紹介するのがデリカ＝金子孝彦社長、長野県松本市＝の「自走マニアスプレッダＤＡＭ―２５４Ｓ」と、トラック搭載型堆肥運搬・積込機「搭載ダンプベッセルＤＤＶ―４０１０ＢＮ」のコンビネーション。秋から春の限られた期間に、点在する多くのほ場へ効率よく移動・散布を行いたい現場に最適なシステムだ。

ポイントは、機体ごとの完全な役割分担。１台の自走マニアスプレッダのオペレータは、ほ場内での「散布」のみに集中。一方、同時に稼働する２～３台の搭載ダンプベッセルが堆肥センターとほ場間を往復し「運搬・積込」に専念する。散布中の自走マニアスプレッダが空荷になると、ほ場に到着した搭載ダンプベッセルが即座に堆肥を補給する。これによって、散布機の現場待機時間が極限まで削減され、手を止めない連続散布が可能になる。そうした時間短縮の積み重ねにより、複数のほ場を抱える現場でも、全体の散布作業を短時間で終えられる。現場にもたらすメリットは大きく３つある。

【作業待機時間の削減】補給までの待機時間を排除し、作業効率を大幅に向上できる。

【二度手間・重機不要による労力削減】トラックで運んだ堆肥をほ場脇に一度降ろし、ホイールローダー等で積み直す二度手間が不要に。搭載ダンプベッセルの荷箱が垂直にまで持ち上がるダンプ構造によって、散布機への直接投入が一発で行える。

【広域移動・運搬時間の短縮】農地の集積・規模拡大によりほ場が広域に分散する現代の営農現場において、堆肥センターから各ほ場へのスピーディーな運搬を実現。トラックに積載する搭載ダンプベッセルなら公道を法定速度で移動でき、運搬効率を飛躍的に向上できる。

散布を担う「ＤＡＭ―２５４Ｓ」（最大積載質量２５００kg）は、湿田・軟弱地に強いゴムクローラと、軽めの堆肥を均一散布できるスーパービータを採用。一方の「ＤＤＶ―４０１０ＢＮ」（同２０００kg）は防錆性に優れたステンレス荷箱を備え、専用スタンド付きでトラックへの着脱もスムーズに行える。

〝積み替えの手間や待ち時間がなくなり、作業が驚くほど早くなった〟と導入現場でも好評なこの連携システム。短期集中が求められる散布現場の作業改善と省力化を、強力に推し進める決め手となっている。